

編集後記

この号が御手許に届く頃には、全国各地の花便りが聞かれるようになっていると思います。このように、編集後記を通じて読者の皆様へ季節のご挨拶をお送りすることは、編集子の楽しみの一つである。特にそれが心の浮き立つような春のご挨拶では、その気持も一入である。

さて、リハビリテーション医学の特徴の一つは、障害と障害を持った人間を取り扱うことである。さらに、その取り扱い方は、多面的・全人間的なアプローチが要求される。これらの要請に応え、リハビリテーションを実践していくための基盤が障害の評価である。本号はこの大切な問題の特集として取り上げた。

我が国の障害評価としては、身体障害福祉法が障害者の更生を保障する法律として長い間その役割を果たして来た。しかし、昭和59年から、脳原性運動障害の評価が加わり、障害の認定方法などにも新しい変化がおこった。このような点を踏まえて肢体不自由を初山氏に、脳原性運動障害を鈴木氏にお願いした。両氏とも単なる解説にとどまらず、現実を直視した論文を頂くことが出来た。同様に労災保険法も古い歴史を有しているが、大隈氏らの論文も新しい息吹を伝えてくれた。また、松為氏らの開発されたレディネス・チェックリストは、我が

国で初めての前職業評価とでもいうべき注目すべきものである。今後の成果に期待したい。

応募原稿では、浜田氏らの論文を研究と報告に、畑野氏らのものを紹介欄にのせることが出来た。浜田氏らの論文でのADLの改善で痴呆の改善がおこるという興味深い結果、畑野氏の地味ではあるが大切な仕事、いずれも本誌にとって誇れるものである。

講座は、病理学として「筋疾患」が、国立精神・神経センターの埜中氏によって大変きれいな写真とともに、解り易く解説して頂けた。リハビリテーションの専門家を志す若い学徒ばかりでなく、ベテランの先生方にもリフレッシュに活用して頂けるものとする。さらに、車いす移動では、森田氏が簡明なイラストを活用した素晴らしい講座を書いて頂いた。その他、中島氏の骨格構造も大変明解である。

最後になってしまったが、関節の可動性という巻頭言を廣畑氏が書いて下さった。この内容を読んで“関節は動くもの、動かすもの”これこそリハビリテーションの極意を言い得ているのではないだろうかと思ったのは筆者だけであろうか。

(大川 嗣雄)

編集顧問

天児 民和
大島 良雄
河邨 文一郎
五味 重春
砂原 茂一
津山 直一
土屋 弘吉

編集委員

明石 謙
上田 敏
緒方 甫
大井 淑雄
大川 嗣雄
千野 直一
横山 巖

編集同人

赤津 隆
今田 拓
今村 哲夫
岩倉 博光
江口 壽榮夫
小川 孟
荻島 秀男
奥川 幸子
加倉井 周一
小島 蓉子
斉藤 正也
笹沼 澄子
澤村 誠志
高橋 勇
高松 鶴吉
武智 秀夫
土屋 和夫
土肥 豊
永井 昌夫
中村 隆一
野島 元雄
野村 歓
長谷川 恒雄
初山 泰弘
福井 罔彦
松村 秩
三島 博信
矢谷 令子
米本 恭三
渡辺 英夫
(五十音順)

総合リハビリテーション (第16巻 第4号)

1988年4月10日発行 (毎月1回10日発行)

1部定価 1,750円 (配送料60円)

(年ぎめ予約購読料 19,560円)
(送料弊社負担)

発行 株式会社 医学書院

代表者 金原 優

〒113-91 東京都文京区本郷5-24-3

電話 受付台 (03) 817-5600

本誌編集室直通 (03) 817-5704

(担当: 山田・細田)

販売部直通 (03) 817-5659・5660

ファクシミリ (03) 815-7802

振替口座 東京 7-96693番

印刷所 三報社印刷(株): 電話 (03) 637-0005

広告申込所 (株)東広社: 電話 (03) 409-8803

Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 5-24-3 Hongo, Bunkyo-ku Tokyo © 1988, Printed in Japan.
本誌の内容を無断で複写・複製・転載すると、著作権・出版権の侵害となることがありますので御注意下さい。